



臍帯血について

学んで共有しよう。
会話一つが変化をもたらすかもしれない。

“World Cord Blood Day”は啓発を目的としています。

多くの方が、初めてこの日にさい帯血幹細胞について聞き、それが現時点において白血病、リンパ腫や鎌状赤血球症など80種類以上の病気の治療として使用されていることを知ることになるかもしれません。初めて耳にする方は基本から学びましょう。下記の臍帯血について簡潔にまとめた情報を読んだ後、World Cord Blood Dayに開催される予定の無料のオンラインカンファレンスに登録し、さらに先へ進みましょう！

臍帯血がどれほど医療に変化をもたらした（もたらし続けている）のか、世界中の専門家による議論が行われます。

- ▶ さい帯血は出産の際に胎盤とさい帯（へその緒）に残った血液のことです。
- ▶ さい帯血は強力で異論の余地のない幹細胞の源です。
- ▶ 胚性（初期胚から採取された）幹細胞とは違い、出産後に採取されるため、非論争的で論理に反しません。
- ▶ さい帯血は政治的・宗教的な問題はありません。
- ▶ さい帯血の採取はママや赤ちゃんに危険を及ぼしません。
- ▶ さい帯血の採取は出産の過程を妨げることはありません。
- ▶ 現在、さい帯血幹細胞はがん、免疫不全疾患や遺伝性疾患などを含む80種類以上の病気の治療・治療に用いられています。

さい帯血は骨髄に比べ特徴的な利点がいくつかあります：

- ▶ さい帯血は採取・保管が容易で、移植で必要な際はすぐに使用が可能です。
- ▶ 骨髄移植を受ける患者に対し、臍帯血1単位の移植を受ける患者のほうが移植片対宿主病（GVHD）のリスクが著しく低いことが研究によって明らかになっています。臍帯血2単位の移植に関しては、急性移植片対宿主病の発症のリスクは骨髄移植やほかの方法と匹敵します。
- ▶ 最近の研究によると、病気によっては臍帯血が用いられた際の再発率がより低いことが明らかにされています。

Learn more at
www.WorldCordBloodDay.org

Inspiring Partners:



BE THE MATCH



Association for the
Advancement of
Blood & Biotherapies



Hosted by:

